

# 株式市場新聞

www.marketpress.jp

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



1 第401号

日経平均株価

3万7677円06銭

▼74円82銭(前日比)

TOPIX

2804.16

▲8.20(前日比)

2025  
3/24  
月曜日

## インバウンド関連に追風

### 訪日外人旅行者最多更新続く

連日連夜報道されるトランプ関税砲で半導体や自動車をはじめ輸出系が大きく値を崩す中で目立たぬながら強い動きを続けるのがインバウンド関連を含めた内需系だ。日本政府観光局（JNTO）によると今年1月の訪日外国人旅行者数（推計値）は、前年比40.6%増の378万1200人と2カ月連続で単月過去最多を更新。これから桜の開花期や大阪・関西万博、F1グランプリなどビッグイベント開幕を控え観光を含めて内需関連企業には追い風となる。

### JRやキャラビジネス好調

内需系  
でその  
代表例



万博の玄関口・夢洲駅も開業した

米国に輸入される一関税が4月2日に自動車に25%前後一予定されており、自動車メーカーのみならず搭載される電子部品を含めて輸出系企業の新年度の業績予想を極めて読み難い状況だ。一方で安定した業績から株価が素直に反映されているのが

は電鉄。JR西日本（9021）は3月7日に3089円の年初来高値を更新、JR東日本（9020）も昨年11月6日に付けた3093円に迫る勢いだ。JR西日本は4月13日開幕の大阪・関西万博に向けては関西国際空港から万博会場、さらには世界的観光地である京都にも接続している。JR東日本も首都圏

日経平均の日足チャート



での観光需要と3月開業の高輪ゲートウェイシティの開業効果も期待できる。調整一巡から出直る動きのサンリオ（8136）はハロースキティを筆頭に国内外でキャラクタービジネスが好調で、

2月18日の高値7315円奪回に期待が高まる。大阪・関西万博でガンダムのパビリオンを出展するバンダイナムコホールディングス（7832）も3月4日に5157円の最高値更新後も底堅い動きだ。インバウンドと内需の観点からは地域限定菓子を展開する寿スピリッツ（2222）も調整一巡から出直る動きで注目したい。

# 日本駐車場大幅反発

## 日本スキー場好調で上方修正



週明け10日、日本駐車場開発(235)が。大幅反発。25年7月の業績予想について、連結売上高で3億6千4百万円(前期比12.1%増)へ、営業利益で70億円(同1.4%増)へ上方

修正、期末一括配当を7円から8円(前期5円50銭)へ引き上げた。日本スキー場開発(6040)の運営施設でウィンターシーズンの来場者数が当初の想定よりも好調に推移した。

被害が想定される生産者を金銭面で支援できる応援商品の販売を開始したと発表しており、同社の取り組みが引き続き評価された。定置網漁やワカメの養殖など、甚大な被害が想定される三陸町綾里の漁業者を金銭面で支援できる応援商品の出品を可能にし、全額が被害を受けた漁業者に支払われる。

# 大手金融株が値崩す

11日、三菱UFJフィナンシャル・グループ(8306)をはじめメガバンクや第一生命ホールディングス(8750)の生保など大手金融株が軒並み値を崩した。ニューヨーク市場でゴールドマン・サックス・グループやJPモルガンチェースなど米景気急減速懸念から金融株が軒並み値を崩したことから、パニック売りが日本金融株にも波及。債券先物急伸から長期金利低下もネガティブ材料となった。

### MTG営業益2.1倍

MTG(7806)がストップ高。25年9月期の業績予想について、連結営業利益で50億円から70億円(前期比2.1倍)

上方修正した。増収と新商品売上比率向上による粗利の増加やブランド力向上によるマーケティング効果が発揮された。

### ジイ・シイ企画ストップ高

ジイ・シイ企画(4073)がストップ高。TMN社との資本業務提携を深化させると発表したTMN社は資本業務提携深化の一環として同社の複数の既存株主から、普通株式合計13

### 三井ハイ19%営業減益

12日、三井ハイテック(6966)が続急落。同社は11日の取引終了後、

26年1月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比18.8%減の130億円を見込んでいます。リードフレームパッケージが中心となるレガシー半導体の需要に回復していく見通し。



花咲翁

# 3月第2週の動意銘柄

## 牧野フライズ 複数社買収提案

製作所(6135)が急伸し最高値。投資ファンドなど複数社が買収を提案しているとの噂が伝わった。同社に対してはニデック(6594)が1株1万1000円でTOBによる買収提案しており、TOB価格が引き上げへの思惑から買いが向かった。

## 正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は続伸しました。日経平均は前の週から623円上昇しています。下落が続いていた米国株が切り返してきたことを受け、週初から続伸し3万8000円を回復する場面がありました。日米金融政策決定会合は予想通り現状維持で、したが、週末にかけては午前中に上昇したあと戻り売りに押される。ただ、週足は、前の週を確認したトランプ戒感強く、週すが、27日が当、優待狙いのしよう。引き続きル円の動きを確とバリュー株やIPOのセカンダリーにもチャンスを探る考えです。一方、動きが鈍るようなら半導体関連はショートで狙いたいと思います。花咲翁

## 防衛とバリュー、IPOも

米経済指標を受けたド認しながら、防衛関連の安値で当面の底入れかたちになりました。政権の関税政策への警戒も上値は重そうで権利付き最終日で、買いが下値を支えるので米経済指標を受けたド認しながら、防衛関連

# 宇宙関連2銘柄S高

## 証券会社が投資判断「買い」

12日、アストロ

スケールホールディ

ングス(186A)

とSynspect

ive(290A)

の宇宙関連2銘柄が

ストップ高。アスト

ロHDはSBI証券

が投資判断「買い」、

目標株価1420円

でカバレッジを開始

28年4月に営業

段階での黒字転換を

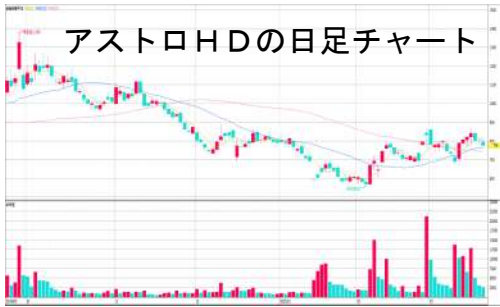
予想した。Syns

は野村証券が投資判

断「買い」継続、目

標株価を740円か

ら818円へ引き上



### ネット銀利ザ改善期待

楽天銀行(583

8)が続騰で年初来

高値更新、住信SB

Iネット銀行(71

63)も急反発した。

日銀の植田総裁は衆

議院財務金融委員会

で、長期金利は「自

由に形成されること

が基本、市場の見方

とわれわれの見方の

間に大きなそごはな

い」と述べたことを

受け、日銀が早期に

追加利上げに踏み切

るとの思惑から利ザ

改善期待が高まった。

特にネット銀行

は有店舗の銀行に比

べて運営コストが低

く収益拡大しやすい

構造が評価された。

## シキノHTは戦略提携

13日、シ

キノハイテツ

ク(6614)

がストップ高。

シリコン知的

財産(IP)

ソリューション

のリーディ

ングプロバイ

ダーであるC

AST社と世

界の半導体市

場で両社のI

Pラインナツ

プと販路拡大

を目指した新た

戦略提携を結ぶと発

表した。CAST社

は

シキノハイテツ

が

保有するIPコア(J

### エニカラ上方修正

ANYCOLOR

(5032)がスト

ップ高。25年4月

3Qは営業利益10

9億円6500万円

(前年同期比21.3

%増)と大幅増益

で

着地、通期予想を1

48億円から154

円(前期比24.6

%増)に上方修正

したことが好感

PEGX Lなどの画

像圧縮技術)の提供

を世界に向けて開始

将来的に他の画像処

理IP製品へも拡大

させる見通し。

### 松井証券

今こそ始めるデイトレード

# 松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引  
コスト

プレミアム  
空売り

独自  
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック





# 主力半導体軒並み高 Intel合併へ出資働きかけ

など主力半導体関連銘柄が軒並み高。台湾TSMCがエヌビディアやアドバンスト・マイクロ・デバイス、マイクロ・デバイス、ブロードコムにIntelの工場を運営する合併会社

13日、アドバンテスト(6857)やデイスコ(6146)、東京エレクトロン(8035)、レジーナ(520)など

への出資を申し入れたと報じられた。NY市場でエヌビディア株が6%超上昇するなど米半導体の上昇も買戻しを誘った。

## 電線株の上昇目立つ

週末14日、古河電氣工業(5801)、フジクラ(5803)をはじめ電線株の上昇が目立った。全般相場の下落過程で大きく売られたことで値ごろ感が高まった。米国のAIインフラ整備に向けた巨額投資プロジェクト「スターゲート」によるデータセンター向け光ファイバー需要拡大に加え、ウクライナとロシアが停戦すればウクライナのインフラ復興に絡む需要

### WSコープ赤字拡大

ダブル・スコープ(6619)が大幅に3日続落。26年1月期について、連結営業損益で43億円の赤字(前期10億8000万円の赤字)と赤字拡大を見込んだ。イオン交換膜については受注量の増加を見込み自動化を進めており、受注増加に備えた生産性の改善に取り組んでいる。

## 3月第3週の動意銘柄

**インスペックス** 週明け17日、インスペックス(6656)が光装置事業から撤退することを発表。これにより25年4月期

は特損計上で最終損益で8000万円の赤字から1億5000万円の赤字(前期3億5300万円の赤字)へ修正、期末一括配当も3円から無配(同無配)へ修

**天馬は創業家MBO** 正した。天馬(7958)がストップ高カイ配。同社は14日の取引終了後、創業家一族の持ち株会社F

HLホールディングスによるマネジメント・バイアウト(MBO)を行うと発表したことで、TOB価格である3580円にサヤ寄せして水準を切り上げた。

優待利回りは前週末終値ベースで5.5%となり利回り妙味から買いを集めた。

**エコムト国交省技術採用** エコムト(3987)が連続ストップ高。国土交通省公募した現場ニーズ「道路異常箇所自動抽出・事故損傷箇所を判別する技術」への技術提案が採用されたと発表したことが引き続き買いつけが続き続いた。技術情報提供システム「NETIS」への登録を目指す。

「オートサーバ」がストップ高。株主優待制度新設を発表した。6月末に100株以上を保有する株主にクオカード1万円分、26年6月末以降は100株以上で5000円、200株以上で1万5000円分を贈呈する。25年6月末100株以上保有の優待利回りは前週末終値ベースで5.5%となり利回り妙味から買いを集めた。

「オートサーバ」(5589)がストップ高。株主優待制度新設を発表した。6月末に100株以上を保有する株主にクオカード1万円分、26年6月末以降は100株以上で5000円、200株以上で1万5000円分を贈呈する。25年6月末100株以上保有の優待利回りは前週末終値ベースで5.5%となり利回り妙味から買いを集めた。

## 日経平均のEPSが急低下

今週の東京株式市場は続伸しました。日経平均は一時3万8000円台乗せまであり、1月高値からの下げ幅の半値戻しを達成。一方、TOPIXは年初来高値を更新し、個別物色が旺盛な動きとなってきました。

さて、今週27日が3月期決算企業の権利付き最終売買日となります。そのため、海外市場が荒れなければ、押し目では配当権利取りの買いが入り堅調地合いが続くものと思われます。もっとも短期騰落レシオは加熱気味となっており、あまり高値を追いかけるようなことは避けたいところ。

また、日経平均の一株利益(EPS)が2450円割れとなっており、2月13日の2564円から100円以上も低下しています。そのため今週は配当権利取りで買い向かうよりも、一旦、利益確定してポジションを軽めにするのが良策ではないかと考えております。



日々勇太郎

# 防衛関連買い進む

## 世界的防衛費増が追い風

17日、三菱重工（7011）が4連騰で上場来高値を更新したほか、IH（7013）や川崎重工業（7012）、日本製鋼所（5631）の防衛関連が買われ進んだ。トランプ米大統領がNATO脱退に言及、欧米各国が防衛費の増大に踏み切るなど世界各国が防衛拡大に動



くなか、東京市場で

も物色人気が高まった。日本に対しても

防衛支出をGDP比で「3%以上に引き

上げるように要求した」と報じられた。

増が圧迫している。公開価格38%上回る

# 総合商社買い気再燃

## パークシャーの買い増し判明

ウエイの子会社が総

18日、総合商社株が軒並み高。17日受付分の変更報告書（5%ルール）でウォール・ストリート・ジャーナル（WSJ）が、パークシャー（8053）の買い増しを判明した。保有割合は三菱商事（8058）が8.31%から9.67%、三井物産（8031）が8.09%から9.82%、丸紅（8002）が8.30%から9.30%、住友商事（8053）が8.2%から9.29%、伊藤忠商事（8001）が7.47%から8.53%に上昇した。バ

公開価格38%上回る

TalentXの初値

フェット氏は2月下旬に公表した「株主への手紙」で日本の大手商社株の買い増しに意欲を示していた。ギフト15%営業減益

ギフトホールディングス（9279）が急落。25年12月期第1四半期決算は、連結営業利益前年同期比14.7%減の7億7400万円となった。コスト

# 新電元は赤字拡大減配

19日、新電元工業（6844）が大幅反落。25年3月期の業績予想について、連結最終損益で3億円の黒字から27億円の赤字（前期7億1200万円の赤字）へ修正、期末一括配当を130円から65円（前期130円）へ引き下げた。産機が中国経済低迷の影響を受け、棚卸

評価損なども影響。公開価格2.8%上回る JX金属の初値 JX金属（5016）が東証プライム市場に新規上場、公開価格820円を2.8%上回る843円で初値をつけた。半導体・情報通信材料の製造販売、資源開発、金属の製錬、リサイクルを行う。

# 企業観察 荒川化学工業(4968)

## 貴金属リサイクル視野に提携

荒川化学工業（4968）は松や微細藻類などバイオマス素材による用途開発で新規事業創出に取り組んでおり、微細藻の薬理作用に着目した開発を進めるSopros社に続いて、温泉に生息する微細藻類Galdieria（ガルデアリア）を研究開発するガルデアリア社と資本業務提携した。ガルデアリアは効率の良い培養能力、高温・高酸性など極限環境下でも生育可能で、細胞表面に貴金属を選択的に吸着する能力を持つことから、貴金属リサイクルの革新的技術として期待されている。都市鉱山や工場廃液からの金

## 市場開拓進めば設備を設けて参入

やパラジウムなどの回収について、イオン交換樹脂で回収したあともさらに回収が可能になるなど回収率が飛躍的に高まる。ガルデアリア社はNEDOの助成を受け、月産4トンの貴金属回収剤生産設備の稼働を目指しているが、潜在需要は膨大で「市場開拓が進めば当社も設備を設けて参入する」（会社側）構え。

一方、Sopros社はすでにフリーズドライ製品をECで発売、サプリメントなども商品化する予定で、当面はSopros社と連携しながら医療、食品、コスメ分野などへ開発を進める。

英和 (9857)

# 第3四半期は19%営業増益

## 中計で連結売上高470億円目指す

防災・減災、国土強靱化に關連する特殊車両に關する受注は堅調に

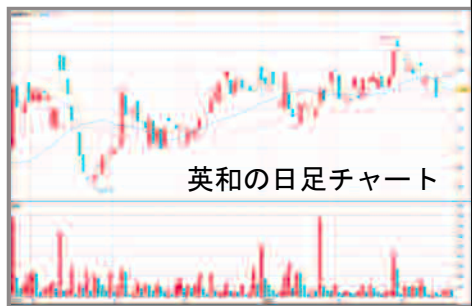
### 営業網を最大限活用

英和(9857)は工業用計測制御機器、環境計測・分析機器、測定・検査機器、産業機械の分野で、あらゆる産業のハイテク化に貢献する技術総合商社で、単に「物を売る商社」ではなく、「提案型セールスエンジニア企業」へと変貌している。

重点戦略である既存顧客への深耕開発と成長ビジネスへの注力を掲げ、デジタルトランスフォーメーション(DX)、グリーントランスフォーメーション(GX)、社会資本整備の3分野をテーマに、全国展開した営業拠点網を最大限に活用。第3四半期累計(4~12月)決算では連結売上高322億7000万円(前年同期比6.4%増)、営業利益18億8400万円(同19.3%増)、純利益13億8200万円(同25.9%増)と大幅な増益で着地した。

推移。化学業界や電力業界向けに老朽化した生産設備に付帯する更新需要や生産性向上を目的とするデジタル技術を活用した投資需要を取込んだ他、生産設備の高稼働状況を背景に造船業界向けの販売も増加。25年3月期通期は連結売上高で売上高440億円(前期比1.6%増)、営業利益23億5000万円(同1.1%増)、純利益16億8000万円(同0.7%増)

の従来予想を据え置き、中期3カ年経営計画では27年3月期に連結売上高で470億円を目指す。



英和の日足チャート

## 特選銘柄

## ペルセウスがS高

### PPMX-T003試験内容好感

設計・制作、データ  
た。クリエイト  
60円を5%下回る  
上場、公開価格870  
ンダード市場に新規  
31A)が東証スタ  
メディックス(3  
メイックスの初値

公開価格5%下回る

赤血球パラメータで薬効が示唆された。PMPMX-T003の第I相試験について、試験総括報告書が完成したと発表された。念6例で安全性を懸念するような重篤な有害事象は認められず、ヘマトクリット、ヘモグロビンなどの赤血球パラメータで薬効が示唆された。

ペルセウス19日、オミクス(488)がストップ高。トップ高。真性多血症患者を対象とした抗トランスフェリン受容体1抗体

書で大量保有変更報告  
た。19日提出され  
合が19日提出され  
急落。オアシス・マ  
ン(3865)が  
北越コーポレーシ

北越コーポレーシ

有価証券利息が当初計画を上回る見込み。当、政策株式売却や方、政策株式売却や。与信関係費用が145円)に増配する。当初計画を下回る。当、政策株式売却や。与信関係費用が145円)に増配する。当初計画を下回る。

解析・分析、インターネット広告代理など。東京きらぼし増額増配。週末21日、東京きらぼしフィナンシャルグループ(7173)が大幅反発。19日取引終了後、25年3月期の業績予想について、経常利益で321億円から409億円(前期比24.1%増)へ上方修正、期末配当を75円から85円(前年同期80円)へ引き上げ、年間配当を160円(前期145円)に増配する。

支援事業を手がける。5円で初値が生まれ  
た。モバイルIoT  
5.6%上回る84  
開価格800円を  
市場に新規上場、公  
A)が東証グロース  
ミック(332

ミックの初値

サポートと全国ツアーマ  
配送ネットワーク  
サービスを手がける。公開価格5.6%上回る

パパネットの初値  
パパネット(9388)が福岡Qボ  
ド市場に新規上場、  
公開価格700円を  
18.6%上回る8  
30円で初値をつけ  
た。あと値幅制限上  
の980円まで買  
れた。不動産管理サ  
ポートと全国ツアー  
配送ネットワーク  
サービスを手がける。





# 本格的業績拡大へ

## 新田ゼラチン



## アジアで生産体制拡充

牛骨ゼラチンが伸長し、コラーゲン

新田ゼラチン(4977)はゼラチンやコラーゲンペプチドの国内大手で、食品や健康・美容、医療といった様々な分野へと展開している。2月13日付では今25年3月期予想を連結売上高では390億円(前期比3・5%減)を据え置いているものの、営業利益では従来予想の36億円から39億円(同2・1倍)へ、純利益で16億円から21億円(前期18億5000万円の赤字)へ上方修正、期末配当も9円から11円(前年同期8円)へ引き上げ、年間では20円(前期16円)となる見込みで、好実態は評価できよう。

国内トップを誇るゼラチンについてはガムからのシフトなどで需要拡大が続くグミキャンデー用やソフトカプセル用、写真用などは引き続き好調に推移。北米でもソフトカプセル向け

## 医療用ゼラチン順調に拡大

『Wellnex』コラーゲンを100%使ったペプチドコラーゲネイドを用いたコラーゲンペプチドも現在の600トンから25年6月に1150トンに増強予定にある。アジアでの生産体制拡充効果が来期以降、業績に反映していきそうだ。

バイオメディカルでは海外の医用材料メーカーで第2四半期から取り扱いの始まった医療用ゼラチンの販売が順調に拡大しており、来期はこれが通年寄与することになる。人工骨や人工皮膚などの生体材料としてコラーゲンやゼラチンの特性を応用。現在ではiPS細胞を用いた網膜細胞の移植手術などにも欠かせない存在となっている。再生医療分野でも細胞作りから治療まで同社製品が活躍しており、先行き更なる収益貢献が期待できそうだ。

ペプチドもインドやアジア市場で引き続き好調に推移。食品材料も製菓・デザート用ゲル化剤が伸びている。24年1月にニッタゼラチンユーエスエーInc.(NGU)を閉鎖する一方で、ニッタゼラチンインド(Wellnex)のゼラチン生産設備を年4500トンから27年7月に年6000トンに増強、コラーゲンペプチドも現在の600トンから25年6月に1150トンに増強予定にある。アジアでの生産体制拡充効果が来期以降、業績に反映していきそうだ。

# 購読会員募集中！！



デイトレ候補銘柄毎日配信！！



株式市場新聞

www.marketpress.jp



# 星野三太郎の 株街往来

## ～株主優待制度～

★  
そんな株主優待制度を積極的に行っているのは日本がダントツらしい。米国なんて国土が広いから優待品の輸送コストもバカにならない。その代わり四半期ごとに配当を行う企業もある。公平な株主還元なら配当ということだ。日本でも近年では優待を廃止して配当重視の企業が増えてきたが、優待廃止発表後に株価が急落することが多いことから、優待を復活させる企業も現れている。

そういうえばトヨタが今年3月から優待を新規導入することは話題になった。トヨタが優待を導入するならば我が社も！という企業も増えるかも知れない。やはり株価上昇による値上がり益を追求することが一番だが優待目的の投資も捨てがたい。

3月も下旬になり権利配当取りのシーズンがきた。この時期になると優待狙いで買うならどの銘柄が良い？と聞かれることがあるが、飲食チェーンの食事券だと住んでいる地域ではない店舗が全く存在しないケースもあるだけに、安易に特定の銘柄を紹介するのは無責任になってしまう。

3月も



## New product

### ゼンショー ロッテリアの宇治抹茶フェア スイーツとシェーキ計3品発売



#### ロッテリアの宇治抹茶フェア

ゼンショーホールディングス（7550）グループのロッテリアは期間限定で、「ロッテリアの宇治抹茶フェア」を開催、香り高く深みのある味わいの宇治抹茶を使用したスイーツとシェーキの計3品を発売している。「宇治抹茶パイ」は宇治抹茶クリームと、宇治抹茶を合わせたホワイトチョコレートクリームの2層に仕上げたフィリングを、サクサク食感のパイ生地で包んだ商品。「宇治抹茶パフェシェーキ」は、宇治抹茶シェーキに、口どけの良いホイップクリームとチョコレートソース、薄く削ったチョコレートをトッピング。宇治抹茶をシンプルに楽しめる「シェーキ 宇治抹茶」も販売中。

### カルビー フルグラ 抹茶あずき味 期間限定全国発売、訪日客にもPR



#### フルグラ抹茶あずき味

カルビー（2229）は和の味わいが楽しめる新商品「フルグラ 抹茶あずき味」を6月上旬までの期間限定で全国で発売する。「抹茶味」は2018年に中国で先行発売し好評だったため、19年から日本でも発売している和のフレーバー。「抹茶あずき味」は、香り豊かで上品な抹茶味のグラノーラに人気が高いあずきをはじめ、いちごや干しぶどうをトッピング。ザクザクとした噛みごたえと、本格的な抹茶の香りやほどよい渋み、甘味の変化が楽しめる味わいに仕上がっている。パッケージは京都の庭園をイメージした抹茶パウダーの写真を掲載することで日本らしさを演出。期間限定マークの周りには梅や桜などのイラストが春の雰囲気を出している。味名の英語表記も併記し、訪日観光客にもPRする。

## 潮流

## 日本株は4月まで上昇か!?

## 外人の持続的な先物買い必要



日経平均は3月11日に3万5987円と昨年9月以来の3万6000円割れとなった。しかし、その後は買いが優勢となり、3月18日には3万8000円台まで上昇した。

上昇の要因はヘッジファンドやCTAといった外国人投機筋による株価指数先物の買い戻しだ。外国人投機筋は今年に入り2月第4週まで先物を3兆8158億円も売り越していた。「先物売り・円買い」のポジションを組んでいた。3月11日には1ドル=146円54銭まで進んだ円高が、3月18日には1ドル=150円寸前まで円安が進んだ。

外国人投機筋が「先物買い・円売り」を進めたことで、日経平均は僅か5日間で2000円も上昇したのだ。

また、3月の日本株は決算期にあたり、配当取りの買いも入った。日経平均株価の採用銘柄のうち配当利回りが高い50銘柄で構成する「日経平均高配当株50指数」は約8カ月ぶりの高水準となった。3月期企業の配当の権利取りを狙った買いが活発化した。これで、日経平均は3万6000円割れが底といえる。底入れを確実にするには米国株の上昇転換と外国人投機筋の持続的な先物買いが必要だ。



3月末にかけて米株が戻れば、日本は年間を

通して最も上昇しやすい4月を向かえることができる。日銀は3月19日に行った金融政策決定会合で、政策金利を現在の0.5%に据え置く政策維持を決めた。市場は織り込み済みだ。内田副総裁が「毎回利上

げしていくようなペースではない」と発言していたほか、植田総裁も「こういうご時世なので、海外の経済・物価動向を巡る不確実性については非常に心配している」と述べていた。ただ、日銀の利上げスタンスは変わらない。

外国人投機筋が「先物買い・円売り」を進めて日本株が上昇し、円安基調が強まれば、日銀は利上げを実施する。利上げにより日本株は売られることになる。円高・株安は日本経済に相当なダメージを与え、景気にマイナスだ。日銀の政策を変えなければ日本経済の本格的な回復は見込めない。日本を復興させるために積極財政と金融緩和維持を政策として掲げている政治家が日本のトップになることが必要だ。財務省解体デモを通じて、国民は正しい知識を得ている。国民が日本を変える時が来る。

潮流銘柄はミガロホールディングス(5535)、ハピネット(7552)、Terra Drone(278A)。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール  
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年にNHK番組「経済最前線」で紹介された。直近では2024年3月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。<http://marketbank.jp>

積極財政と金融緩和維持を



敏腕先物ディーラー

# ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール  
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



27日が権利付最終日

日経平均の週足チャート



先週の日経平均は前週末比約623円高と2週連続で週足陽線となった。前週の週足「十字線」からの今週の上昇で前週の安値(3万5987円13銭)が当面の底値となった形である。「中銀ウィーク」となった先週だが市場の予想通りの「据え置き」で波乱とはならなかった。しかし、

4月2日に米国の関税発動を控え様々な駆け引きが行われており、積極的に上値を追う投資家はいないようだ。だが、日本株は3月27日に権利付き最終売買日を控え、今週は配当狙いの買いも入ると思われる、その後も配当落ち分の再投資も期待でき底堅い展開を想定する。4月2日の関税発動を控え、様々な情報

が飛び交う週にもなると思われるので、ニュースに振り回される週にもなるろう。チャートでは3月11日の安値(3万5987円13銭)を底に戻りを試し、25日移動平均線(3万7909円)を抜いたところで戻り売りが出て25日移動平均線を下回って引けている。上昇

# 配当取りの買いに期待 底堅い展開も方向感乏しい

日経225先物の日足チャート



の過程で3万7154円39銭(3万7377円55銭、3万7563円27銭)3万7822円87銭と2つの窓を形成。相場の強さを伺えるが、相場が反転したときの下値メドとしても意識されよう。今週の下値メドとしては5日移動平均線(3万7554円)窓埋め(3万7150円)窓埋め(3万7000円)が挙げられよう。一方、上値は25日移動平均線(3万7909円)窓埋め(3万8000円)窓埋め(3万8000円)19日の高値(3万8128円)が意識されよう。今週のレンジは3万7000円(3万8000円)を想定、方向感の乏しい展開を予想する。(ハチロク)

